

A-96 人工着色料の代謝(その1)

—着色料と経時的排出—

佐賀家政大家政 副田 博之

1. 食品公害が叫ばれている昨今、食品中に含まれる化学的物質が人体に与える害の有無を証明する研究は数多くなされている。慢性的に物質を投与し、その組織的所見より判断の基準にする方法が多くとられているが、今回はタール系人工着色料が如何にして排出されるかを主に経時的に追究し、その結果を検討したい。

2. 市販の着色料をラッテに経口、腹腔、静脈的に一定量を投与し、尿尿に排出される色素を時間的に採取、分光光度計にて分析した。

3. 経口、腹腔、静脈的に色素を投与後、尿には30分～数時間で、尿には20数時間以内に排出を終了する。投与量に対する尿尿中に回収できる色素の率は経口、腹腔、静脈の順に小さくなる。又尿と尿に排出される色素の比は全部尿に含まれて排出する方が大であり、経口、腹腔、静脈の順に小さくなる。経口的に色素を与えてもその濃度が高いと尿中にも排出される。